NPO地球の緑を守る会/〒121-0072東京都足立区保塚町１－６/Tel:03-6783-4707Fax:03-6783-5595/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和4年(2022)7月10日

No. 175

発行　高津啓洋

日々躍動するレダ

レダにあるパパイヤ並木

パンタナール地域に植樹活動を展開するとともに、憩いの場である森づくり、果実栽培が脈々と続けられています。故・伊達勝見事務局長も先頭に立って植え続けた木々が成長し、また多くの実を実らせています。引き継がれた事業は、現地の若い人たちへと継承され、各地に森が作られています。

土地改良のための炭作りも大きな役割を果たしています。今では、新鮮な野菜が自給されているのもうれしいものです。

レダで果物と言えば、マンゴ、パパイヤ、バナナ、グレープフルーツ、アセロラ等です。果物は猿や、多くの野鳥の好物で、マンゴー等は野鳥のお腹に入って全滅に近い時もあります。

パパイヤの花です

剪定後の木も大切な資源で炭に

コロナ禍でも小規模な植樹活動を

宮脇方式（当会顧問で、「4000万本の木を植えた男」としても知られる宮脇昭先生）で、混植、密植を通して、土地本来の樹種を植え続けます。日本では、シイ、タブ、カシ等が中心です。また、ポット苗方式で、普通では300年かかる森が30年で再生できる方式として、海外でも大変に注目を集めています。

当会の会員も各地の植樹会に参加して、高津啓洋理事長が宮脇先生から薫陶を受けた「木を植えよう」を合言葉に、自宅でのポット苗づくりから、植樹までを各地で展開しています。（溝垣記）

どこに行っても木を植えよう

［お知らせ］皆様の近くで植樹祭等がありましたら、予定などをお知らせください。